



ポルトガル共和国 Portuguese Republic



たばこ産業の特徴

1. 製造数量は2003年が218億本。2002年の国内消費は174億本である。
2. ポルトガルのたばこ産業はPhilip MorrisがコントロールするTabaqueira S.A. (旧ポルトガル専売)と、大西洋のアゾレス諸島とマデイラ諸島にある二つの小企業から成っている。
3. 伝統的に国営企業のTabaqueiraが支配していたが、1997年にPhilip Morrisが買収に成功し、現在株式の99.15%を支配している。PMは南部ヨーロッパで所有する唯一の工場として戦略的に重視している。
4. PMの国内シェアは90.1% (2002年) に達している。
5. 喫煙者はフルフレーバーのポルトガル・クラシック製品を好む。
6. 主要メディアによるシガレットの広告は禁止されている。
7. EUの規則が認める税水準の中で、ポルトガルのシガレット税はEUの中でも一番高く、シガレットの喫煙に対しては非常にペナルティ的である。

[1] 法規制等

警告文等:

EU指令に従い包かの表面に警告文と、裏面には6つの警告文をローテーション記載しなければならない。包かへのTN含有量の表示が必要。

喫煙場所規制:

国内線、映画館、劇場は完全禁煙。国際線、バス、電車、カフェはある程度の規制がある。官庁、民間の職場共に完全禁煙ではないが規制されている。

販売規制:

18歳以下の者の購入と喫煙は禁止されている。

広告規制:

映画館、テレビ、ラジオ、新聞、雑誌、大型広告看板等の主要メディアによる広告は1983年から禁止されている。

POPは許可されているが、警告文を記載する必要がある。しかしPOP広告については、全面的に規制を検討中

販売促進活動:

イベントのスポンサーについていくつかの規制があるが、更に検討されている。

[2] 税制

EUの一員としてポルトガルはEUの消費税制を採用しており、いわゆる「固定税」と従価税、付加価値税がシガレットにかかっている。

EUの規則が認める税水準の中で、ポルトガルのシガレット税はEUの中でも一番高く、シガレットの消費に対しては非常にペナルティ的である。

1999年5月に行われた税制の変更は、362.5Pte/包かの販売には有利になったが、それ以下の価格帯のブランドは价格的に不利になったと言われている。

最も一般的なシガレット・ブランドの小売価格に対する税率

従価税	小売価格の	26.00%
付加価値税	小売価格の	14.53%
特別税		33.34 ドル/1,000本
小売価格に対する税負担率		80.70%

(葉巻) 他のEU諸国と同じように、ポルトガルの葉巻とシガリロもEU消費税制の枠組みの中にあり、特別消費税/付加価値税がかかる。

EU法制で認められている柔軟性のために、国内のトータルの消費税はEUの他の諸国より高い。

	ポルトガル	スペイン
特別消費税	26.21%	9.00%
付加価値税	14.53%	13.80%
卸売マージン	18.91%	12.50%
輸入マージン	16.22%	25.00%
メーカーマージン	24.13%	3.70%

(European tobacco control country profiles database 2000より)

[3] 喫煙者プロフィール

- ・フルフレーバーの安い製品に人気があるが、健康に対する関心の高まりと生活水準の向上と共に、軽い製品へ移行している。
- ・年間の消費本数は次第に増加しているが、近年に至り頭打ち。喫煙人口は200万人と推定されている。

喫煙者率 (1995/96年)

成人男性 20.4%、 女性 6.4%。

一人当たり年間シガレット消費本数

	1970年	1980年	1990年	1995年
年間喫煙本数	1362本	1805本	2211本	2079本

(出典：tcrc European Tobacco Control Country Profiles Database 2000より)

[4] 市場概況

- ポルトガルのたばこ産業はPhilip MorrisがコントロールするTabaqueira S.A. (旧ポルトガル専売)と、大西洋のアゾレス諸島とマデイラ諸島にある二つの小企業から成っている。
- ポルトガルの2002年のシガレット消費本数は174億本。
- シガレットの製造数量は1999年の171億本から、2003年には218億本に増加している。
- Tabaqueiraは国産の伝統的ブランドの市場地位とイメージを持っているが、Philip Morrisブランドの国内での製造のために、Tabaqueiraの国内販売は1996年に民営化されて以来増加し続けている。
- Philip MorrisがコントロールしているTabaqueiraのトータルマーケット・シェアは90.1%に達している(2002年)。
- Tabaqueiraのシガレット製造工場の改革に加えて、Philip Morrisのグローバル・ブランドは最近のシガレット消費税制の変更で有利になっている。
- British American TobaccoのLucky StrikeとPall Mallと、Altadisが製造しているブランド、CITAによるブランド、JTIのブランドが輸入シガレットで競争している。
- 予想外の国内シガレット需要増のために1999年の輸入がピークになったが、国内で製造されるPhilip Morrisブランドで輸入は置き換えられ、2003年には当時の半分に減った。
- 輸入はスペインのCoronas、オランダのRothmansからのDunhill、Peter Stuyvesantシガレットなどがある。
- TabaqueiraはPhilip Morrisグループの強力な輸出使命があるために、ポルトガルからのシガレット輸出は1999年当時の2.5倍に増加している。
- 反喫煙法があり、またしばしば反喫煙キャンペーンが行われており、たばこの広告も禁止されているが、女性やヤング世代の特定のマーケット層を含む特定市場から生じる需要のために、今後とも緩やかに消費は増加すると予想されている。

製品データ

	2001年	2002年
消費数量	178億本	174億本
フィルタ付き製品%	100%	99.40%
ブロード製品%	100%	100%
Philip Morrisシェア	89.20%	90.10%
BATシェア	2.80%	3.60%
JTIシェア	4.00%	2.20%
主要ブランド		
SG	46.50%	45.20%
Marlboro	21.80%	22.40%
Potugues	14.50%	15.70%

シガレット関係データ (単位 億本)

	1995年	1999年	2000年	2001年	2002年	2003年
製造数量	138	171	204	213	214	218
輸出数量	2	18	38	41	42	44
輸入数量	27	26	27	26	16	13
消費数量	163	179	193	198	188	187

(注：消費数量は計算上の推定値)

[5] 製品概況

(シガレット)

- Tabaqueiraが製造するシガレットの60%はSG Family、Portugues Suaveブランドのようなポルトガルのクラシック・タイプである。残りはL & M、Chesterfield、MarlboroのようなPMの国際ブランドや、EU諸国向けのローカルブランドである。
- フルフレーバーの安い製品に人気があるが、健康に対する関心の高まりと生活水準の向上と共に、軽い製品へ移行している。
ベストセラーは高タールバージョンのSG FiltroとSG Ventil、SG Giganteである。83mmの低タール製品にはSG Ligts、SG Super Lights、Marlboro Lights等がある。
SG Super Lightsは、ポルトガル人のフルフレーバーシガレット嗜好を反映して、シェアを獲得しようとしている。
- ポルトガル市場は無視出来ず、Tabaqueiraのクラシック・シガレットの製品品質向上に大きな努力が傾注されている。
この方針の下に1999年5月に新パッケージングで新たにPortuguesブランドが再発売され、シガレット市場で2002年には15.7%のシェアに成長している。

平均小売価格	国産ブランド	2.13USドル
	外国ブランド	2.13USドル

(葉巻とシガリロ)

- 1998年以来葉巻とシガリロの製造はアゾレスとマデイラ諸島に集中している。葉巻とシガリロの製造産業は、アゾレス諸島のFabrica de Tabacos Micaelense (FTM)とFabrica de Tabacos Estrela (FTE)、マデイラ諸島のEmpresa Madeirense de Tabacos (EMT) - ここもFTEが所有している - で構成されている。
- 1999年のポルトガルの葉巻とシガリロの製造数量は、アゾレスとマデイラ諸島での販売が増えたために、多少増加した。2000年から2001年にかけても同じ傾向が続いている。
- Tabaqueiraのリストラの一部分として、国内のシガレット市場に集中するために、葉巻とシガリロの製造は全て1998年現在FTMに移されている。EMTとFTEは限られた数量の葉巻とシガレットをB、Cクラスの低税率の諸島テリトリー向けに製造しており、FTMは高級葉巻の製造と手作業による葉たばこ処理を組み合わせている。

[6] 流通

輸入シガレットはRothmans、BAT、JTI、CITA、Gallaher、Altadis、Reemtsaなどの大手国際ブランドは国内代理店により輸入されている。

たばこ店、バー、伝統的な小さなレストランなどが小売りの大部分を占めている。伝統的なたばこ店の重要性は盗難問題のために低下している。

自動販売機は現在3,000~5,000台あり、販売ネットワークを拡大している。

Tabaqueiraの規模と財政的能力は魅力的な流通網を作ることができ、自動販売機の大部分にはTabaqueiraのブランドが入っているとされている。

Tabaqueiraは流通会社Sociedade General de Distribucaoを所有しており、この流通会社は流通市場のシェア75%を占めている。

残りは500の民間卸売り業者が分担しており、更に5万5,000店のたばこ小売り業者へ卸される。

増税のためにスペインと価格差が広がり(例えばスペインでWinstonが1.05ポンドのものが、ポルトガルでは1.25ポンド)、密輸が増えているが、国境線の長さから取締りは困難である。

[7] 企業概要

ポルトガルのたばこ製造は非常に集中しており、シガレットの大量製造はポルトガル本土のTabaqueiraだけである。

Tabaqueiraの他に、ポルトガルのシガレット・メーカーはEmpresa Madeirense de Tabacos (EMT)とFabrica de Tabacos Micaelense (FTM)があるが、シェアはささやかなものである。

Tabaqueira:

国営企業であったが、1997年にPhilip Morrisはポルトガル唯一の民間たばこ会社のEmpresa Madeirense de Tabacosと組んで、Tabaqueiraの株式の65%を取得し民営化された。

1999年9月にPMは更に25%を取得して、PMは現在Tabaqueiraの株式の99.15%を支配している。

2002年までに製造数量を210億本に増加。Philip Morrisはオランダとドイツから40億本の製造をポルトガルに移した。

Tabaqueiraの近代化のための新投資とコスト削減戦略の一部分として、Philip Morrisの国際ブランドとポルトガルの国産ブランドの製造は、Tabaqueiraのリボンに近いAlbarraque工場に集約された。

Marlboroは諸島市場向けに製造されており、Tabaqueiraのクラシックなフィルタ無しのPortugues Suaveのポルトガル本土向けの製造はFTMに移転されたが、これは経営や流通上の利点に加えて、諸島の特別たばこ税回避による利益をTabaqueiraにもたらしめている。

葉巻とシガリロの製造はAzorean FTMに移されたが、FTMはSociedade Atlantica de Investimentosの子会社を通じてTabaqueiraにより間接的にコントロールされている。

アゾレス、ボンタデルゲイド、フンシャルの3箇所シガレット・葉巻・細刻・嗅ぎたばこの工場があるPhilip Morrisグループのポルトガルでの販売収入は全体のわずか1.8%しか占めていないが、PMグループにとってTabaqueiraは戦略上重要である。

これはヨーロッパ南部で同グループが有する唯一の工場だからである。

この場所は、スペイン、フランス、イタリアのような南欧諸国へ供給するにはPMにとって理想的な場所だからであり、Tabaqueiraのアルバラク工場で製造しているL&M、Marlboro、Chesterfieldが輸出されている1996年にTabaqueiraを買収後、近代化とコスト削減を含む方向転換の戦略が新経営者により進められた。同社のリストラの一部としてTabaqueiraの投資ポートフォリオは変更され、資源を主力事業の集中している1997年初めにTabaqueiraがコントロールしていた流通網の売却に続き、主力中核事業に関係のない多数の事業も売却した。

Tabaqueiraが現在一番重点的に投資しているのはたばこ部門であり、Agritab社(資本の99.24%)とSociedade Atlantica de Investimentos(資本の66.67%)に投資しており、ここを通じてFTMをコントロール合計で2億3,500万ドルのTabaqueiraの株取得経費と、1996-2000年の間の3,400万ドルの投資により(伝えられる所によれば、2001年に更に1,000万ドル投資する)、Tabaqueiraは1996年の180万ドルの損失が、1999年には1,400万ドルに拡大している。

2001年のシガレット製造数量は210億本と予想されている。更に50%製造能力を拡大するために投資を検討中である。

大陸のTabaqueiraの他に、アゾレス諸島に二つのシガレット・メーカーがある。

Fabrica Tabacos Micaelense (FTM)は間接的に、TabaqueiraとFabrica de Tabacos Estrela (FTE)にコントロールされており、両社共にアゾレスS.ミゲル島にある。

Fabrica Tabacos Micaelense (FTM)はPMのアンダーライセンスでMarlboroの製造を、フィルタ無しのPortugues SuaveはサブコントラクトでTabaqueira向けに製造している。

Marlboroはアゾレスとマデイラ市場向けであり、Portugues Suaveはポルトガル本国市場向けである。

Madeiran Empresa de Tabacosが所有しているFabrica de Tabacos Estrela (FTE)は自社ブランドも製造しており、アゾレスとマデイラ市場向けである。

[8] 葉たばこ概要

国内で生産されているのはバージニア葉とバーレー葉だけである。

バージニア葉はベイラ内陸、アレンモージュ、リバテージュが主産地である。

バーレー葉はベイラリトラ、アゾレス諸島のセントミゲル島で栽培されている。

葉たばこ輸入数量7,800トン、輸出数量2,000トン（2000年）